［九州産業大学］

スポーツと健康を科学する スイミングプール

九州産業大学 総合企画部広報課

1 大学創立60周年記念事業として建て替えを実施。九産大スイミングプール

九州産業大学スイミングプールは、2020年に大学創立60周年記念事業の一環として、旧プールの建て替え整備を経て現在の姿になった。「丘の上にまいた『種』を育てる」をコンセプトに、上から見ると種の形に見えるよう設計されており、種の殻を破って何かを生み出す活力に満ちたイメージを表している。

1階には、研究・教育と選手育成をサポートする「大学プール（25m×6コース、水深1・35m～2.0m）」と、地域住民が利用する「スイミングクラブプール（25m×8コース、水深1.2mと0.8m）」の2つのプールがある。「大学プール」は本格的な競技から、レスキューの指導やリハビリまで多目的に利用できる仕様になっており、幅広く活用されている。また、水中の動きを横から観察できる水中窓も設置している。「スイミングクラブプール」は、幅広い年齢層の利用を想定した2つの水深の違うレーンで構成されている。大人と子どもの利用動線を分けることでユーザビリティに配慮するほか、プールの脇にジャグジーやサウナを併設。2階には、観覧席やサークル部室のほか、トレーニング室、ホットヨガスタジオ、レッスンスタジオ、キッズスペースなどを有する。

2 大学プールとして教育・研究面における活用。フィンスイミング日本代表選手の輩出

教育面では、教職課程履修学生が授業を通して、泳法や指導方法を修得。着衣水泳などのカリキュラムで水上安全法も実践的に学んでいる。研究においては、水中窓と特殊カメラを用いて、泳ぎの動作分析を行うなど多方面で活用されている。

学生の課外活動としては、水泳部（フィンスイミング）が日々練習を行っており、全国大会優勝を果たす選手を

輩出するなど好成績を残している。２０２４年４月に、コロンビア・ペレイラで開催された「ＦＩＳＵフィンスイミング世界大学選手権２０２４」に、本学学生４名が大学日本代表選手として世界大会出場を果たした。

3 社会で活躍する人材の種。地域の健康と活力の種を育てる施設

本施設の最大の特徴は、『地域に開かれたスイミングプール』であることだ。昭和53年建設の旧プール時代から、国内の大学では珍しく、大学施設内にスイミングクラブを有し、地域の方の利用を受け入れてきた。本学園関連会社が運営する九産大スイミングクラブは、世代に応じたスイミングプログラムに加え、施設を生かした各種フィットネスプログラムを展開してきた。現在は、０歳から90代まで幅広い世代が利用する。加えて、近隣16の幼稚園・保育所と連携し、幼児教育カリキュラムを実施。その他にも近隣高校の水泳部が練習に、地域のラグビーチームがリハビリ目的に利用するなど、健康促進からアスリート育成まで多様な役割を担う施設として存在感を示している。

２つのプールの併設という特徴から、利用者・選手の新たな交流も生まれる。２０２３年７月の「世界水泳選手権２０２３福岡大会」開催時は、競泳ブラジル代表選手団に本学スイミングプールを練習会場として提供。選手団はプールでの練習に加え、本学「大楠アリーナ２０２０」内のトレーニングルームを使用し、競技前の最終調整を行った。受け入れ期間中、スイミングクラブに通う子供たちがプールサイドで練習を見学。世界レベルの泳ぎを目の当たりにし「将来ブラジル代表選手のように世界大会で泳げるように水泳を頑張りたい」と目を輝かせた。

本学スイミングプールは単なる「スポーツ施設」にとどまらず、利用者がそれぞれの目的に応じて活動する場として、「大学」「地域」の垣根を越えた、社会で活躍する人材の種、地域の健康と活力の種を育てている。

プール内観。解放感がありデザインにもこだわりが。

［関西大学］

関西大学たかつきアイスアリーナ
―夢を追い20年―

鶴丸 憲一　関西大学理事長付参与（高槻事務局担当）

1 日本初、大学所有の国際規格アイスリンクが誕生

大阪と京都の中間に位置し、遠く生駒山系を望み、眼下に高槻市街地の広がる丘陵地にある高槻キャンパス。２００６年７月、そのグラウンドエリアの一角に「関西大学たかつきアイスアリーナ」が誕生した。本学創立１２０周年記念事業の一環としてオープンしたのである。日本初の、大学が所有する国際規格のアイスリンクであること、また極めて省エネルギー性が高く、世界初のガスヒートポンプによる製氷方式であることから、全国の自治体や各種団体から多数の視察申し込みがある。非常に注目度の高い施設だ。

2 課外活動の拠点としてのアイスアリーナ

課外活動の振興に伴う環境整備を目的に建設されたアイスアリーナは、本学体育会アイスホッケー部、アイススケート部（フィギュアスケート・スピードスケート）の課外活動拠点となっている。両部とも、かつては練習場所を求めて遠方まで出かけていくという厳しい状況であった。しかし、アイスアリーナの建設により安定的な練習時間の確保が可能になり、目覚ましい活躍を見せている。また、新入生歓迎等の大学行事、正課体育（フィギュアスケート）および併設校の行事や課外活動等にも積極的に利用され、早朝から深夜まで若者たちの熱気であふれている。

3 地域連携の一翼を担い、広く市民にも開放

施設名に「たかつき（高槻）」を冠するとおり、地域との連携を図り、近隣小学校に校外学習等の場を提供するほか、「高槻市民デー」と称してアリーナを一般開放。アイスホッケー部・アイススケート部によるスケート指導やエキシビションを楽しんでいただく催しも実施してい

る。また、市内在住の3歳から11歳の50名を対象に「カイザーアイススケートスクール」を開校し、半年間にわたって毎週末レッスンを行うなど、地域貢献の一翼を担っている。さらに、他大学や一般のジュニア選手の練習場所として貸し出しているほか、アイスホッケーリーグ戦やフィギュアスケート競技会の会場としても施設を提供している。

4 これからのアイスアリーナ

関西大学たかつきアイスアリーナでは、これまでに延べ約80万人の学生や市民が氷上に立ち、その中から5人がオリンピックの大舞台で輝かしい成績を収めている。そして、彼ら彼女らの活躍を称えるべく、アリーナ入口に設置された等身大パネルは、訪れる人々を出迎え、若者たちに大きなインスピレーションを与え続けている。来夏に竣工から20年を迎えるアイスアリーナは、今後も多くの学生や地域の子どもたちがアイススケートを通じて成長し、夢を追いかける場としての役割を果たし続けるだろう。そんな未来を強く願っている。

関西大学たかつきアイスアリーナ（外観）

［流通経済大学］

“アドベンチャー”のチカラを借りて

椎名 純代　流通経済大学スポーツ健康科学部准教授

1 設立の経緯

流通経済大学では、2017年のスポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科開設に伴いプロジェクトアドベンチャー（Project Adventure、以下PA）のロープスコースを設立した。本学の学びの特徴である実学ならびに少人数教育の実践のため、学科の必修科目である「スポーツコミュニケーション実習（アドベンチャープログラム）」の〝教室〟として1年生約100名が利用する。2020年に増設され、現在、ローエレメント6種8基、ハイエレメント5種5基を有する。

PAは、1970年代に米国の学校現場に導入された冒険教育プログラムとそれを提供する機関の名称である。冒険という〝非日常〟がもたらす体験・気づき・成長の機会を学校や大学という環境の中で提供できるよう、ソフトであるプログラムとハードであるロープスコースの設置を行っている。

ローエレメントは、地上30～50㎝の高さにワイヤーや木材でできた用具が設置されたもので、課題達成のために個人やグループの精神的、身体的なチャレンジを促す。同時に協働やコミュニケーション、また葛藤が生まれるような工夫もなされている。

ハイエレメントは、地上8～10mに設置されたワイヤーや木材を使った高所での活動で、チャレンジャーとビレイヤーがビレイシステム（利用者が落下しないように安全を確保する）を使って命綱一本で相互に繋がった状態で行う。授業では、5人1組でチームを組み1人のチャレンジャーを支えるチームビレイを実施。それぞれに役割があり、互いの命を支え合うことで信頼関係や自他を尊重するとはどういうことかを体験を通じて学ぶ。新入生はこの授業で友達ができることも多く、学生同士の関係作りにも一役買っている。

2 活用事例

学生たちは先述の必修授業を1年次に受講したのち、2～4年次演習でファシリテーターとして対象に応じたプログラムの組み立て、実施、振り返りを行う。このように学生たちは、トライ&エラーを繰り返しながら実践を通じて学びを深めている。学生ファシリテーターが担当した主なプログラムは、他学部・他学科のゼミの仲間づくりをサポートする〝出張ゼミ〟をはじめ、多岐にわたる。高大連携事業の一環として付属中学1年生を対象としたチームビルディングプログラム、大学のオープンキャンパスでのハイエレメント体験コーナー、龍ケ崎キャンパスのある茨城県龍ケ崎市との連携事業〝龍流連携〟の一環として、市内の小学校の仲間づくりプログラム、また龍ケ崎市役所職員を対象としたチームビルディング研修など学内外で年間平均約800名以上を対象に行っている。

反響は大変好評である。「みんなで協力し、話しあって作戦を立てなければ達成できないものが多く、最初絶対無理だと思っていたけどやっていくうちにみんなで解決策を出して達成できてよかった」などのポジティブな反応が得られている。

3 今後の展望

ジェネリックスキル測定テストの結果、本学のスポーツコミュニケーション学科3年生（89名）は、大学短大全体（スポーツ・健康・科学系：11校3541名）、私立大学3年生（149校、6万5959名）と比較し、協働力、統率力、感情制御力、行動持続力が高いことがわかった※。大学での学びとの因果関係や入学時からの成長度合いなどは引き続き研究中であるものの、本学科学生の大きな特徴と言えることは間違いない。

今後は体験会などを実施し、学内外のより多くの方にアドベンチャーに触れ、楽しく心と体を動かし、多様な繋がりを創出する場を提供できればと思う。

※ 椎名純代（2024）「ジェネリックスキルから見たディプロマポリシーの達成度と学び及びキャリア意識―流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科3年生を対象とした調査結果に基づく検討―」『流通経済大学スポーツ健康科学部紀要』Vol.17, pp.15-31. より。

ハイエレメント

ローエレメント